

春日大社所蔵『大東家旧記目録』

藤原重雄

【解題】

書誌。分類番号…目録二。袋綴一冊。縦二四・五×横一七・〇センチメートル。表紙共紙全一五丁（墨付一二丁）。やや虫損が多い。『春日神社記録目録』（同社務所、一九二九年）一四二頁、『東京大学史料編纂所報』一七（一九八二年）九〇頁に著録。史料編纂所架蔵写真帳「617065-1」あり（ただし、虫損のため前後の丁がしばしば写る）。

表紙に「享保九年（一七二四）九月に造る」とあり、本文の内容的な下限とも照応する。追記では、冊子最末である六番組末尾に享保十六年の延致記が加えられ、十月廿七日卒とあり、追記内容のもつとも降るもので、大東延致の逝去を機に加筆がなされたようである。本文・追記ともに長男の延栄の筆跡とみられる。目録中には「大東家旧記目録 二冊 延相」（一番箱）とあって、延相（元禄十五年…一七〇二没）の代に作成された目録を参照した可能性はあるものの、現存について未確認で、今その関係を確かめ得ない。

内容的には、江戸時代前・中期の大東延通・延相・延致の三代にわたる日記・記録を中核としている。ただし、延通と延種の間長寿の延種もいるが、ほとんど日記が残されていない。いくつか中世に遡る記録が散見するが、必ずしも大東家の記録ではなく、他家から入手したものも含まれている。一番から六番までの箱に分けられており、おおまかな内

容分類と神事日記（日次記）の年代順のまとまりとが組み合わせになっている。箱ごとの概要を見てみよう。

一番箱は、元和二〜延宝七年の延通・延相・延致の春日祭上卿参向記を中心とし、元禄十〜十三年の延致の江戸日記もある。

二番箱は、中世の神事日記若干と御八講記などの仏事記録、承応二〜延宝八年の延通の神事日記。追筆で享保十一〜十四年の延致記。

三番箱は、元和二〜寛永九年の延通記、慶安三〜五年の延相記に、享保十二年延致記など若干の追記がある。

四番箱は、牧務などの経済関係の記録で、文亀三〜享保七年、及び享保十六年の延栄の牧務交替記が追記される。

五番箱は、慶長九〜二十年の延通の神事日記および、慶長十七〜万治二年の同人の春日祭祀、延相の春日祭祀・若宮祭祀、延致の若宮祭祀などがあり、延致の享保九〜十五年の日記などが追記される。

六番箱は、慶長〜元禄の拝賀記などに、元禄四〜十五年の延相の神事日記。享保十六年延致記が追記される。

記録類の調査とともに照合作業を進めているが、おおまかな傾向を示すと、本目録に載る記録の大多数は春日大社現蔵となっている。牧務など経済関係の冊子を収めた四番組については、大部分が個人蔵となっている。おそらく明治の段階に、神社全体に関わる記録の大部分は、大東

家から春日大社へと奉納され、家政関係の四番箱のみが残されたことになろう。春日大社蔵・個人蔵ともに見いだせないものは、既に失われてしまっているかもしれない。一方で、春日大社現蔵の大東家歴代の諸記録には、本目録に見えないものも若干含まれるようである。また、これ以降の大東家の記録も多数寄進されている。

追筆のなかで興味深い記述としては、將軍吉宗へ上覧に入れたと注記があるもの（五番箱）で、嘉吉二年祐時記（春日大社現蔵・日4）、大永八年祐園記（同・造13）、徳治三年神木動座記（同・日2）が該当するようである。吉宗の文書調査については今後委ねる点も多いが（さしあたり白井哲哉「五畿内志」編纂の歴史的意義」（『日本近世地誌編纂史研究』思文閣出版、二〇〇四年）参照）、春日大社周辺では、享保十年に『春日権現験記繪』が江戸へ運ばれ、翌十一年にも若宮神主家の旧記が上覧されている（大東延和編『春日大社年表』二〇〇三年）。享保二年正月四日に興福寺が炎上し、再興運動が活発になる中で古物が注目されるようになり、本目録の作成の契機もこうした動向と関わりがあるうか。なお大東家でも同十一日の下高島町の火災で類焼し、翌二月には東大寺油倉からの出火で町屋多数が罹災している。

なお、翻刻では通行の文字を用い、『』内は追筆である。丁の表裏の替わる箇所には「」を入れた。

【附記】

本稿は、二〇一二年度共同利用・共同研究拠点特定共同研究課題（中世史料領域）「春日社旧社家「大東家史料」の調査・撮影」によるものである。翻刻入力には木下竜馬氏（東京大学大学院、当時）、原本校正には末柄豊の助力を得て、藤原の責任にて紹介した。調査には松村和歌子氏（春日大社宝物殿、本所共同研究員）のお世話になった。記して謝意を表す。

【翻刻】

春日大社所蔵『大東家旧記目録』〔目一二〕

〔表紙〕 享保九^甲年九月造之
大東家旧記目録〔録〕

大東

〔白紙〕

一番

一 神道書物品々有、

御神樂七ヶ夜入用之書付
同舞殿著座之写

撰政 関白 長者 大将 次第之写

御八講次第之記折本 拝賀行列之次第 以上五通

神鏡相論之節中社小社其外 春日祭繪図 壹通 延相

之御鑰請取手形 壹通 同行列 壹通 延通

春日祭御神宝ノ記并雨儀之記 神主不参之記

一元和二年^丙十一月吉日 春日祭上卿日野大納言資勝御参向記 延通

一寛永元年^甲十一月吉日 同 同 御参向記

一寛永二年^乙三月日 同 寛永八年^辛未十一月九日御同人御参向記與ニアリ、

一寛永五年^戊辰三月日 同 上卿 烏丸大納言光広御^{〔参〕}向記

一承応二年^癸巳二月日 同 上卿日野中納言^{〔備考〕}慶^{〔光〕}向記

一延宝三年^卯十一月日 同 上卿烏丸中納言光雄御参向記

一同 七年^未巳十一月日 同 同時御宿入用雜々記別ニ有之、

一同 上卿日野中納言資茂御参向記

一同 上卿日野中納言弘資御参向記

一同 上卿日野中納言光雄御参向記

一同 上卿日野中納言資茂御参向記

〔表紙オ〕
〔表紙ウ〕

一元祿二年 <small>己未</small> 十二月四日	大岡弥右衛門殿任官次第 <small>(忠高)</small>	同 <small>(1ウ)</small>	一永正十二年 <small>乙亥</small> 三月十六日	同	日記
一明曆三年 <small>丁酉</small> 四月日	当職拝賀入用之記	同	一四月九日	同	日記
一元祿十二年 <small>己卯</small> 二月日	江戸日記	延致	一元和九年	同	日記
一同 十三年 <small>辰庚</small> 二月廿五日	同日記	同	一天正十二年 <small>甲申</small>	同	清祓之 日記
一同 十年 <small>丑丁</small> 五月日	同日記	同	一寛文七年 <small>乙未</small> 十一月日	同	出納九兵衛下行記
一明曆二年 <small>甲申</small> 八月日	大東家旧記目録二冊 <small>(録)</small>	延相	一正徳五年 <small>乙未</small> 九月十六日	有 <small>(馬之)</small> 湯之記	新預職諸 <small>(下)</small> 行記 公事
一天正十一年 <small>癸未</small> 六月廿四日	峯殿春日社御願文 <small>(九条道家)</small>	祐金	一享保元年 <small>甲申</small> 七月日	將軍 <small>(録)</small> 御代替関東下行記	河州寺社 <small>(高久)</small> 參 <small>(諸)</small>
一応永廿五年 <small>戊戌</small> 四月九日始行	元和二年 <small>丙辰</small> 二月日春日祭上卿	延通	一同 八年 九月五日	藤堂和泉守殿御目見之事	大樹綱吉公尊母
一同廿七年 <small>庚子</small>	烏丸中納言光広御参向記		一寛文十年 <small>庚戌</small> 九月二日	桂昌院殿ヨリ御弓矢御奉納次第	
寛文二年 <small>壬寅</small> 二月	同 烏丸殿御参向記		四月晦日		
一寛永六年 <small>己巳</small> 十一月日	同 柳原中納言業光御参向記	同 <small>(2ウ)</small>	一年号不知日記 冊	南円堂旋巡之記	延通
一明曆二年 <small>丙申</small> 十一月日	同 柳原中納言資行御参向記	延相	一寛永五年 <small>戊辰</small> 九月日	同五年 <small>巳</small> 日記	延相
二番	祐時卿御記		一延宝二年 <small>甲寅</small> 日記	同三年 <small>卯</small> 日記	
一嘉吉二年 <small>壬戌</small> 『五ノ箱二入』	当番神供方下行記	祐次	一同 四年 <small>辰</small> 日記	二冊アリ、	
一永正十四年 <small>丁丑</small> 正月以来	社頭諸日記	祐園	一同 六年 <small>午</small> 日記		
一明応八年 <small>己未</small> 申酉三ヶ年	諸神供調進下行事		一同 八年 <small>庚申</small> 日記		
一大永三年 <small>辛未</small> 正月以来日記			一明曆四年 日記		
一永正十五年 <small>戊寅</small> 正月以来			一同 三年 <small>酉</small> 日記		
一永正十一年 <small>甲戌</small> 正月以来日記			一同 二年 <small>申</small> 日記		
一永正四年 <small>丁卯</small> 正月以来日記			一承応二年 <small>己巳</small> 日記		
一応永廿五年 <small>戊戌</small> 四月九日始行			一同 三年 <small>午</small> 日記		
同 廿七年 <small>庚子</small>	御八講始行日記	延基	一年号不知古例之記 一冊 『五ノ箱二入』		
一同 卅二 <small>乙</small> 五月日	同日記	同	一寛文三年 <small>卯</small> 日記		
一天正十八年 <small>庚寅</small> 十月十九日	同日記	同	一同 四年 <small>辰</small> 日記		

一 享保十一年午丙日記	〔延致〕 ^(3ウ)	一 同 十年辛未 <small>十二月十九日下遷宮、移殿ニテ御神事記アリ、</small>	日記	十月晦日	延相
一 同 十三年申巳日記	延致	一 慶安三年寅御神事記		十二月十日下遷宮	
一 同 十四年酉巳日記	同	一 同 四年卯辛 <small>移殿記</small>		六月十一日正遷宮	
(二行分余白アリ)		一 同 五年壬同			
三番		一 寛文三年卯癸六月			
一 永祿四年酉辛正月以來	御神事并雜記	『一 寛文三年卯癸六月			
	平岡御影向記下有、	一 享保十二年未丁			
一 享保五年子庚三月吉日	大柳生泉村鎮主御遷宮記	一 中臣大中臣 口宣案写 上下二冊			
一元和二年辰丙正月以來	日記	(三行分余白アリ)			
一 同 三年巳同	日記	四番 <small>牧務ノ記、其外出納并膳部出狀數多有、当家之書物數多箱有之、</small>			
一 同 四年午戊同	日記	一文龜三年亥癸 当職牧務事		二月廿九日改元永正元云々、	
同 五年未己	日記	一 大永四年甲申 南御牧務御供米錢下行之事			
一 同 六年申庚同	日記	一天文十五年丙午 南御牧名主職記			
一 同 七年酉辛同	日記	一 同 大永三年未癸 引附			
一 同 八年壬戌同	日記	一 慶長二年酉丁 名主職記			
一 同 九年癸同	日記	一 同 三年戌同 当職之記			
一 同 十年子甲同	日記 <small>二月晦日改元 寛永元年</small>	一 同 九年辰甲 同			
一 寛永二年丑乙正月以來	日記	一 同 十二年未丁同			
一 同 三年寅丙同	日記	一 同 十五年庚戌 当家知行并牧務職記			
一 同 四年卯丁同	日記	一元和四年午戊 出納職記			
一 同 五年辰戊同	日記	一 同 六年申庚 作手職記			
一 同 六年巳同	日記	一 寛永五年辰戌 南郷朔月分出納職記			
一 同 七年庚同	日記	一 同 七年午庚 夏酒記			
一 同 八年未辛 <small>十二月十九日下遷宮、移殿ニテ御神事記アリ、</small>	日記 <small>十月晦日正預延豊死去、延通</small>	一 同 九年申壬 名主職記			
一 同 九年申同	日記	一 同 十四年丑丁 南郷一日十一日分出納職記			
		一 同 承応三年午甲 春日祭土器坏手職之日記			

一 明曆三年 ^{酉丁}	牧務職并職人運上物記	同	一万治二年二月四日 同記 紙二枚アリ、	同
一 寛文四年 ^{辰甲}	出納日記	同	一 同 三年迄 延宝二年ヨリ四年迄同記	同
一 延宝六年 ^{午戌}	南郷牧務職日記	延相	一 明曆三年 春冬	同
一 元禄十五年 ^{午壬}	同記	延致	一 慶安三年 ^庚 ヨリ同四年目ノ有之、	同
一 享保七年 ^{寅壬}	坏手号所屋敷記	同	一 慶安三年 ^寅 ヨリ同四年目ノ有之、	同
一 同 十六年 ^{亥辛}	南郷牧務代替之記	延采	一 明曆二年 ^丙 申マテ七ケ年間書統之、	同
	(一行分余白アリ)	(6ウ)	一 春日祭冬季式 一冊	同
	(白紙)	(6ウ)	一 享保六年 ^{丑辛} 同上役勤仕之記	延致同
五番			一 古今最要抄 若宮祭祀記	延相
『一嘉吉二年 ^{戌壬}	祐時卿記 將軍吉宗公エ差上御上覽』		一元禄十年 ^{丁丑} 若宮神主兼帶記	
一 大永八年 ^{子戌}	年始於移殿御神事 ^{正遷宮之事 御八講之事}	祐園	一 慶安三年 ^庚 十一月日ヨリ 若宮祭祀記	
	『將軍吉宗御上覽』		一 明曆二年 ^丙 申十一月迄記有之、同記移殿記有之、右二口一冊	同
一 永禄八年 ^{乙丑}	正月元日より八ケ之間御神事日記		一 同 三年 ^{酉丁}	同
一 同 十一年 ^{辰戌}	天正四年 ^{子丙} 正月元日ヨリ御神事日記 右一冊ニ有、		一 延宝六年 ^{午戌} 若宮祭祀上役勤仕之次第并□物記	同
一 古今最要抄第六之抜書 ^{神燈呂懸落御之事 權官社務代事 朔旦冬至之事 着到之事}			一万治二年 ^{亥己} 延知上役勤仕奥ニ記之、右二□□冊	同
一 慶長九年 ^{辰甲}	正月以來 御神事記	延通	一 享保七年 ^{寅壬} 若宮祭祀上役勤仕記	延致
一 同 十年 ^{巳同}			一 同 八年 ^癸 十一月以來 日記	同
一 同 十一年 ^{乙丙午}			一 同 九年 ^{辰甲} 三月日 辰市家諍論記	同
一 同 十二年 ^{丁未}			一元禄三年 ^{午庚} 正預拝賀記	延相
一 同 十三年 ^{申戊}			一 中臣 大中臣 口宣案写 上下二冊 『三ノ箱二入』	同
一 同 十四年 ^{酉己}			『一年号不知古例之記 一冊	
一 同 十六年 ^{亥辛}			一 德治三年 神木御動座之記	
一 同 十九年 ^{寅甲}			一 六条門跡御社參之記	
一 同 廿年 ^{卯乙}			(一行分余白アリ)	(8ウ)
一 同 十七年 ^{子壬}	春日祭 同		一 享保九年 ^{辰甲} 日記	延致
一 同 十九年 ^{寅甲}	同記 寛永元 ^{子甲} 分迄アリ、		一 同 十年 ^{巳乙} 日記	同

